

# カダイを撮ろう・カガワを撮ろう・セカイを撮ろうプロジェクト

代表者 濱田 雅史（経済学部経済学科2年）

## 1. 目的と概要

今日では、「インスタグラム」や「YouTube」、「ツイッター」など SNS が普及している。「インスタ映え」や「YouTuber」などという言葉が流行するようになり、SNS は影響力がますます拡大してきている。SNS が普及したことによって、だれでも不特定多数の人に情報を発信できるようになった。SNS を情報収集の場として利用している人も若い世代を中心に少なくない。

一方ドローンなどの撮影機器も近年普及され始めており、ヘリコプターなど多額の費用をかけて撮影していた映像が私たちでも撮影することができるようになった。テレビなどのメディアでもドローンによって撮影された映像が使用され始めている。

しかし、地域レベルでは SNS などのサービスやドローンなどの撮影機器をうまく活用し、情報発信できているとはいえない。そこで、私たちが撮影することで、情報発信するとともに、魅力の再発見の機会になり、地域活性化につながるのではないかと考えた。

## 2. 実施期間（実施日）

平成30年7月1日から 平成31年3月6日まで

## 3. 成果の内容及びその分析・評価等

### ①無人航空機の飛行に係る許可・承認

このプロジェクト事業でまず初めに行ったことは、「無人航空機の飛行に係る許可・承認」を受けることである。現在、ドローンを飛行させるために必要な官公庁が発行する免許はない。しかし、ドローンへの理解が乏しい方に協力を得る場合やイベントなどで飛行する場合、国土交通省の許可をみせて、ドローンに関する知識や飛行経験が十分であることを示す必要である。今回、NPO 法人 輝 様にご協力、指導していただき、学生1名が国土交通省大阪航空局から「無人航空機の飛行に係る許可・承認」を受けることができた。この許可・承認を受けることで、国土交通省が禁止している場所や条件でも、申請内容によって一部飛行が可能になる。対流事業で香川大学に來ている芝浦工業大学の学生2名もドローン練習会に参加した。



(写真：芝浦工業大学生がドローン体験をしている様子)

## ②映像作成

### ● 撮影場所の選定

インターネットの情報や地元住民への相談等で撮影場所、撮影方法を決定した。

### ● 現地調査

撮影場所に出向き、ジンバルやドローン、GOPRO など使用する撮影機器を生かすことのできる撮影方法を模索した。特にドローンは実際に飛行させなければ、どのような映像が撮影できるかわからないため、飛行高度やカメラの角度などを確認した。

### ● 撮影・編集

調査から得た情報を生かして撮影を行った。周囲の状況に注意しながら撮影を行った。その後、さまざまな撮影機器の画像、動画を使用し、1分ほどの映像を作成した。

今回撮影したのは以下の通り

ほろ宵祭	東かがわ市	10月	三本松まちあるき	東かがわ市	11月
大串自然公園	さぬき市	10月	五名いのしし祭	東かがわ市	12月
高屋神社	観音寺市	10月	阿古津大師堂	東かがわ市	12月
ちょうさ祭	観音寺市	10月	遍路小屋ワークショップ	東かがわ市	1月
香川大学祭	香川大学	11月	エンジェルロード	小豆島	2月
豊島	豊島	11月	銭形砂絵	観音寺市	2月



(写真：エンジェルロードの空撮画像)



(写真：高屋神社の空撮画像)

● 情報発信

Facebook や YouTube などの SNS に編集した映像をアップロードした。

#### 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、地域社会や香川大学に与えた影響として、まず、地域の魅力の再発見や地域資源の発掘に貢献できたという点があげられる。普段見ることができない角度の映像を見ることにより、地域住民にとっても新たな発見があった。また、ドローンなどの撮影機器を身近なものにできたという点も挙げられる。特にドローンは農薬散布など今後ますます私たちの身近なものとなっていく。地域にとってもドローンの知識を得ることは大切である。今回さまざまな地域に出向き、ドローンなどの機器に興味があるが手を出しづらいと感じている人が多いと感じた。そのような人たちとコミュニケーションをとることで、地方が苦手としている情報発信力の向上につながるのではないだろうか。



(写真：ドローンを操縦している様子)

#### 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

まず、地域住民の方とコミュニケーションをとることができた。地域住民との撮影場所の相談では、その地域の魅力を知ることができ、どのような場所なのか知ることができた。撮影の際も声をかけてくださり、コミュニケーションをとることができた。特にドローンを飛行させている際は「今度〇〇も撮ってよ！」など地域住民から言われて新たな繋がりを生むことができた。

また、撮影機器に触れることにより、撮影技術を向上させることができた。特にドローンは国土交通省からの許可を得ることができ、自信につながった。



(写真：ドローンを飛ばして人が集まってきている様子)



(写真：ドローンでの撮影)

## 6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

今回の苦勞した点は屋外の撮影が多いため、天候に左右される点である。撮影時の天候が悪く、予定していた撮影ができなかったことがあった。学生と地域とのスケジュール調整が難しかった。また、人など動くものを撮影するときには、どのように動くかわからないため、予想しながらの撮影に苦勞した。

これからの課題としては、1点目は現在ドローンの国交省からの許可を受けている人数が1名のため、パイロットを増やしていきたい。ドローンを広めていく、身近なものにしていくことも学生がドローンを飛行させる意味であると感じた。

2点目は撮影機器へのさらなる理解である。各撮影機器は機能が多く、まだまだ十分に力を引き出せているとは言えない。今後、研究を重ねていきたい。最後は発信方法の工夫である。今回は撮影技術の向上が中心になった。ただ SNS に投稿するだけでは、閲覧数が伸びることはない。SNS ユーザーの気を引くタイトルやサムネイル、編集方法、どの SNS に投稿するのか、などさらに研究していく必要がある。

今後の展望として、今回の夢チャレンジプロジェクトでは、「カガワを撮ろう」の一部が達成できたので、今後は、カダイを撮影したり、セカイを撮影したりしていきたい。

最後になりましたが、本プロジェクトにご協力いただいた地域の方々、技術協力をいただいた NPO 法人輝の皆様、香川大学地域連携・生涯学習センターの長尾敦史先生に感謝いたします。

## 7. 実施メンバー

代表者	濱田 雅史	(経済学部 2年)		
構成員	佐々木 理那	(経済学部 2年)	中西 菜緒	(教育学部 2年)
	松原 清香	(教育学部 2年)	岡武 史也	(経済学部 2年)
	櫻井 美珠稀	(経済学部 2年)	村上 大悟	(経済学部 2年)
	藤田 夏希	(経済学部 2年)	本田 莉菜	(経済学部 2年)
	原 萌乃	(経済学部 2年)	角藤 理子	(経済学部 2年)
	山崎 若葉	(経済学部 2年)	千崎 瑛祐	(教育学部 2年)
	木下 悠	(農学部 2年)	白鯛 圭吾	(農学部 2年)
	赤松 誓	(農学部 2年)	前坂 梨帆	(教育学部 2年)
	坪井 なおみ	(教育学部 2年)		

## 8. 執行経費内訳書

配分予算額		196,000円		
執行経費（品目等）	数量	単価（円）	金額（円）	備考
DJI SPARK（ドローン）	1		72,800	
バッテリー	2	5,880	12,192	
MicroSDXC	3	2,592	7,776	
DJI Osumo Mobile2(ジンバル)	1		16,800	
EIVOTOR（外付けマイク）	1		4,860	
ライティングホルダー	1		1,585	
DVD-R(20枚入り)	1		1,080	
交通費			10,960	
合計			128,053	